

Logisnext

2021年3月期 決算説明会



2021年5月27日
三菱ロジスネクスト株式会社



2021年3月期 決算概要

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 CEO 久保 隆

市場環境

- 世界経済は、いち早く経済活動を平時に戻した中国を始め、欧米でのロックダウン解除、アジア圏での規制緩和により、徐々に復調傾向にある。
- しかし、新型コロナウイルスの変異種の発生や感染再拡大による経済復興策の一時停止や再ロックダウンの実施など、依然として予断を許さない状況が続くものとみられる。
- 物流機器市場においては、9月頃から欧米を中心にフォークリフトの需要に回復傾向がみられ、地域・月によっては前年同期の水準まで回復。一方、日本においては、欧米に比して遅れはあったものの、第4四半期会計期間においては、フォークリフト需要についても前年同期の水準近くまで回復。

連結業績概要

- 売上高は、経済環境の良化により受注状況は回復したものの、リードタイムの関係で売上への寄与までには至らず、前年比△12.8%の減収。
- 営業利益は、固定費削減等の取り組みを進めるも、売上高減少による粗利減をカバーしきれず、前年比△40.0%の減益（のれん等償却前）。

2. 決算ハイライト

(単位：億円)

損益計算書	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比増減	
売上高	4,489.2	3,915.0	△574.2	△12.8%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	183.3 (4.1%)	109.9 (2.8%)	△73.4	△40.0%
のれん等償却	98.9	93.9	—	—
営業利益 (営業利益率)	84.4 (1.9%)	15.9 (0.4%)	△68.4	△81.1%
経常利益 (経常利益率)	70.5 (1.6%)	20.1 (0.5%)	△50.3	△71.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	△52.4 (△1.2%)	△26.8 (△0.7%)	—	—

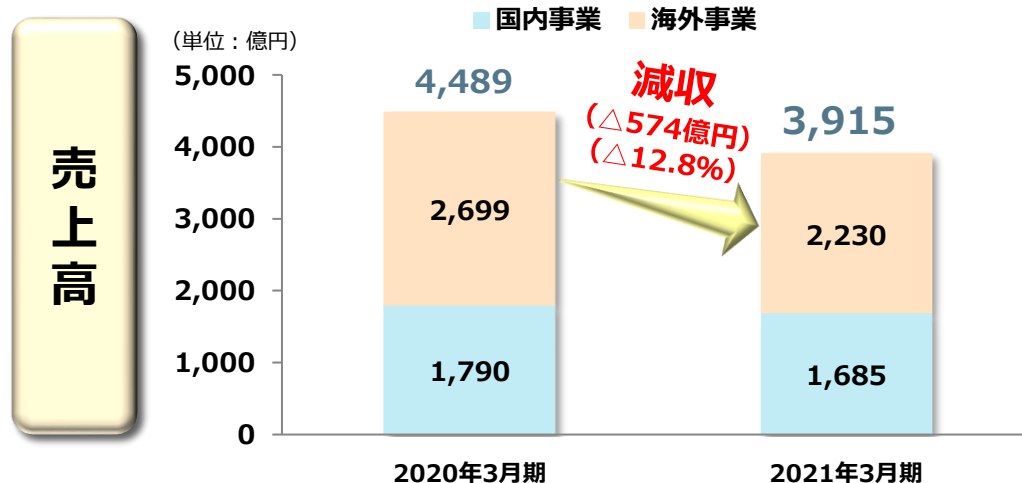
2020年3月期実績レート：USD = 108.74円 EUR = 120.82円 CNY = 15.60円

2021年3月期実績レート：USD = 106.06円 EUR = 123.70円 CNY = 15.67円

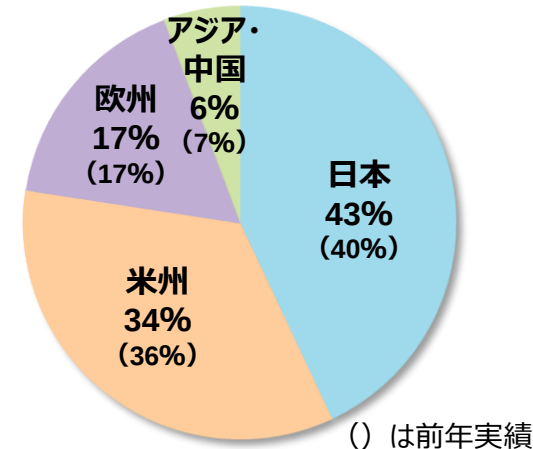
貸借対照表	2020年3月期	2021年3月期	前期比増減	
総資産	3,736	3,635	△101	△2.7%
総負債	3,163	3,080	△84	△2.6%
純資産	573	555	△18	△3.1%

3. セグメント別業績

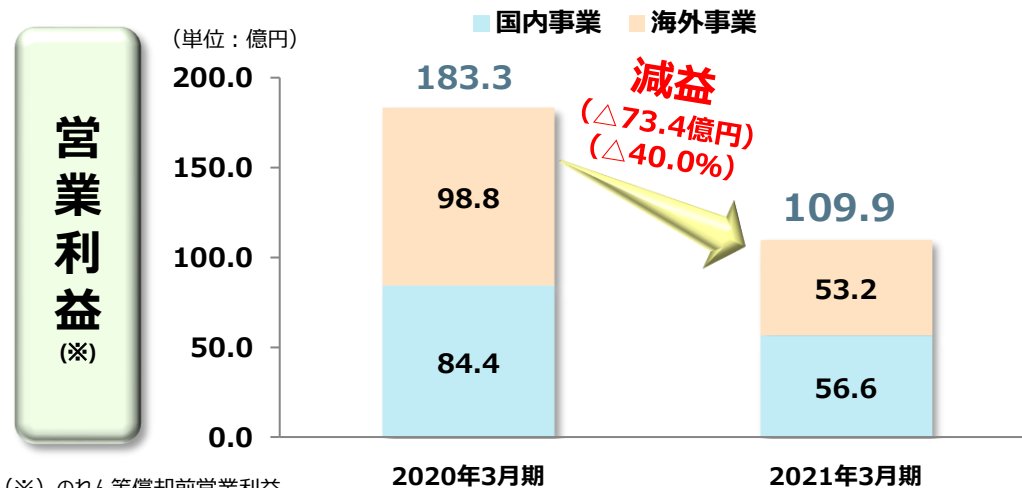
売上高：国内では日本・輸出向け共に回復基調、海外も回復傾向にはあるものの減収。



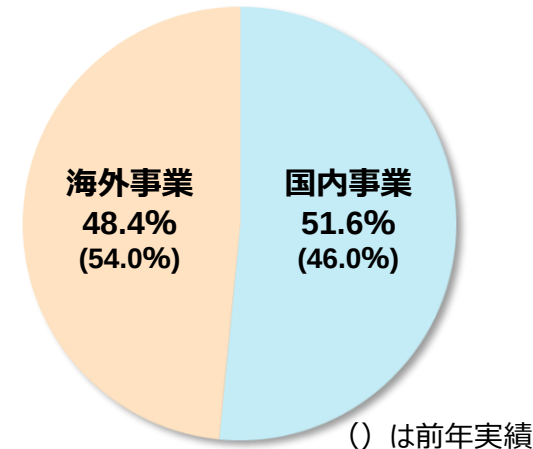
地域別内訳 (2021年3月期)



営業利益(※)：全地域で固定費削減等を進めるも、売上高減少による粗利減をカバーしきれず減益。



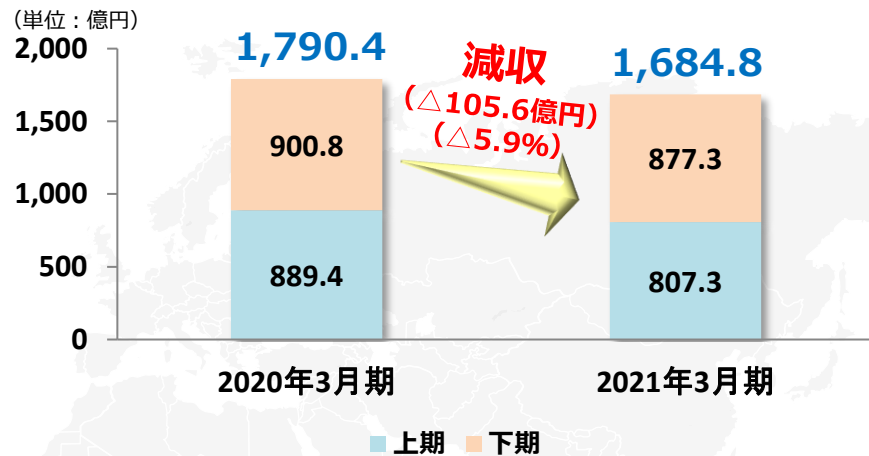
セグメント別内訳 (2021年3月期)



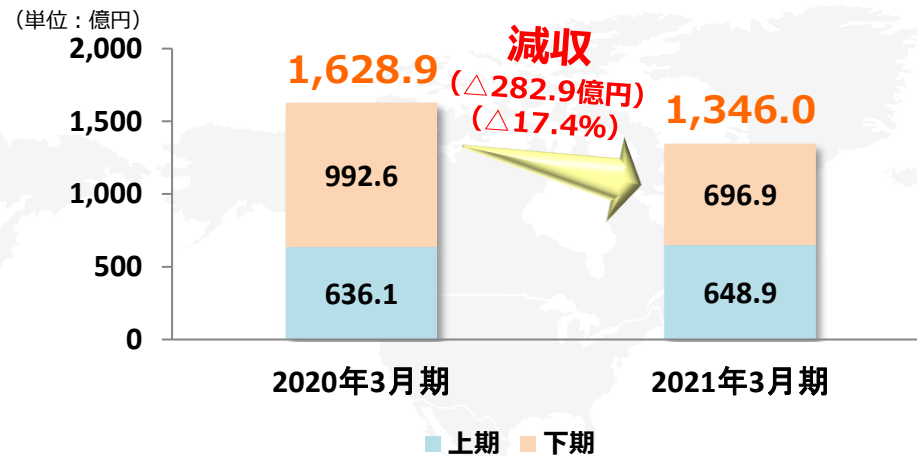
(※) のれん等償却前営業利益

4. 地域別売上高 (為替影響含む)

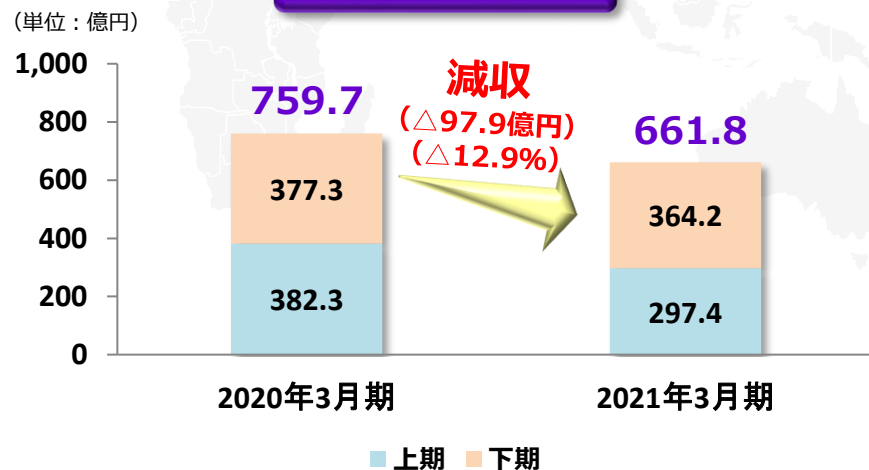
日本



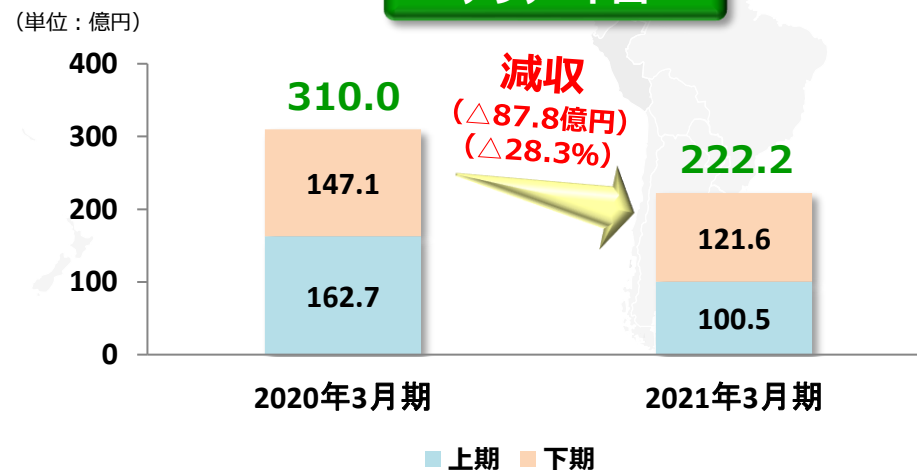
米州



欧州



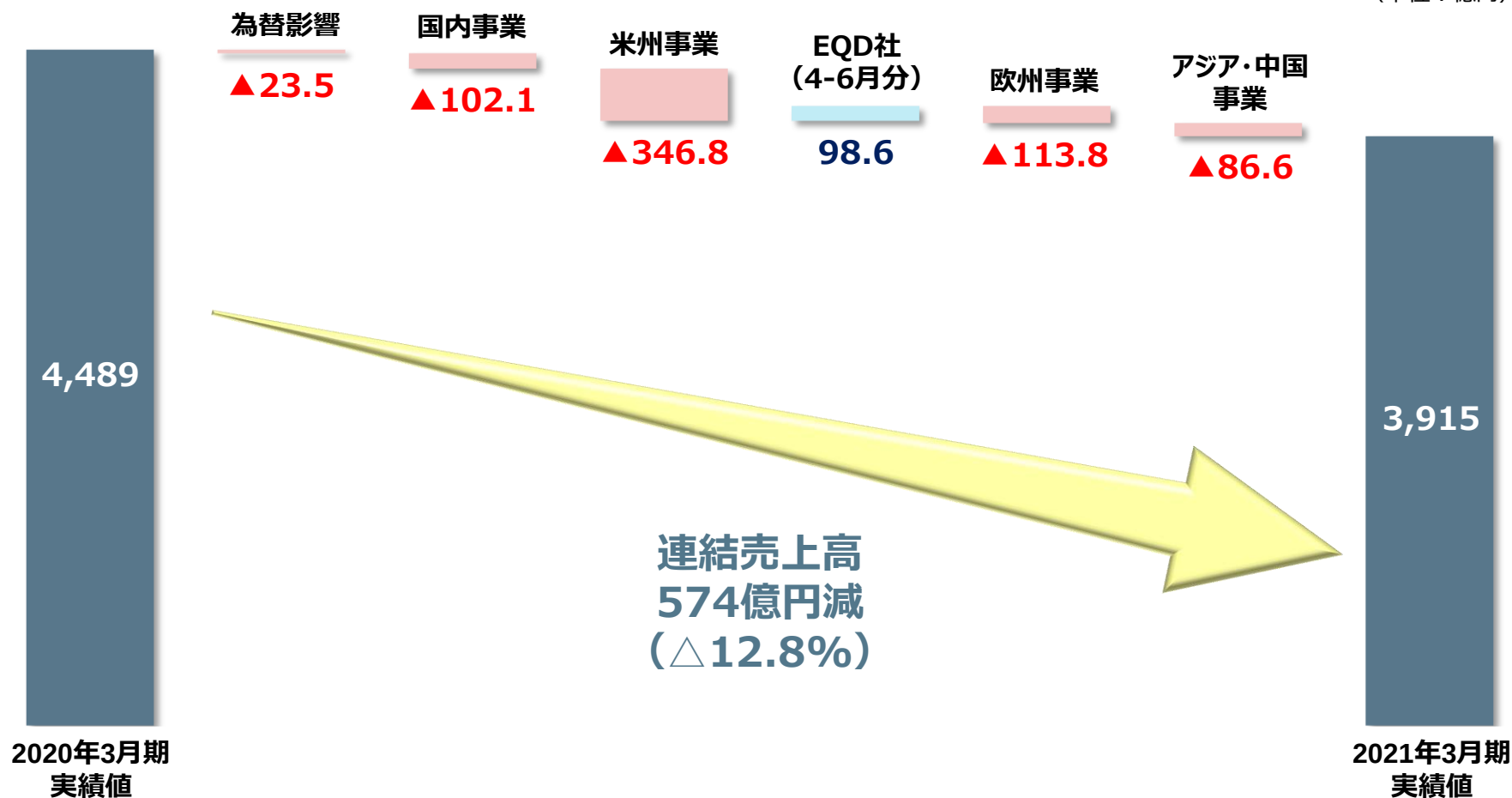
アジア・中国



5. 連結売上高増減要因（前年同期実績対比）

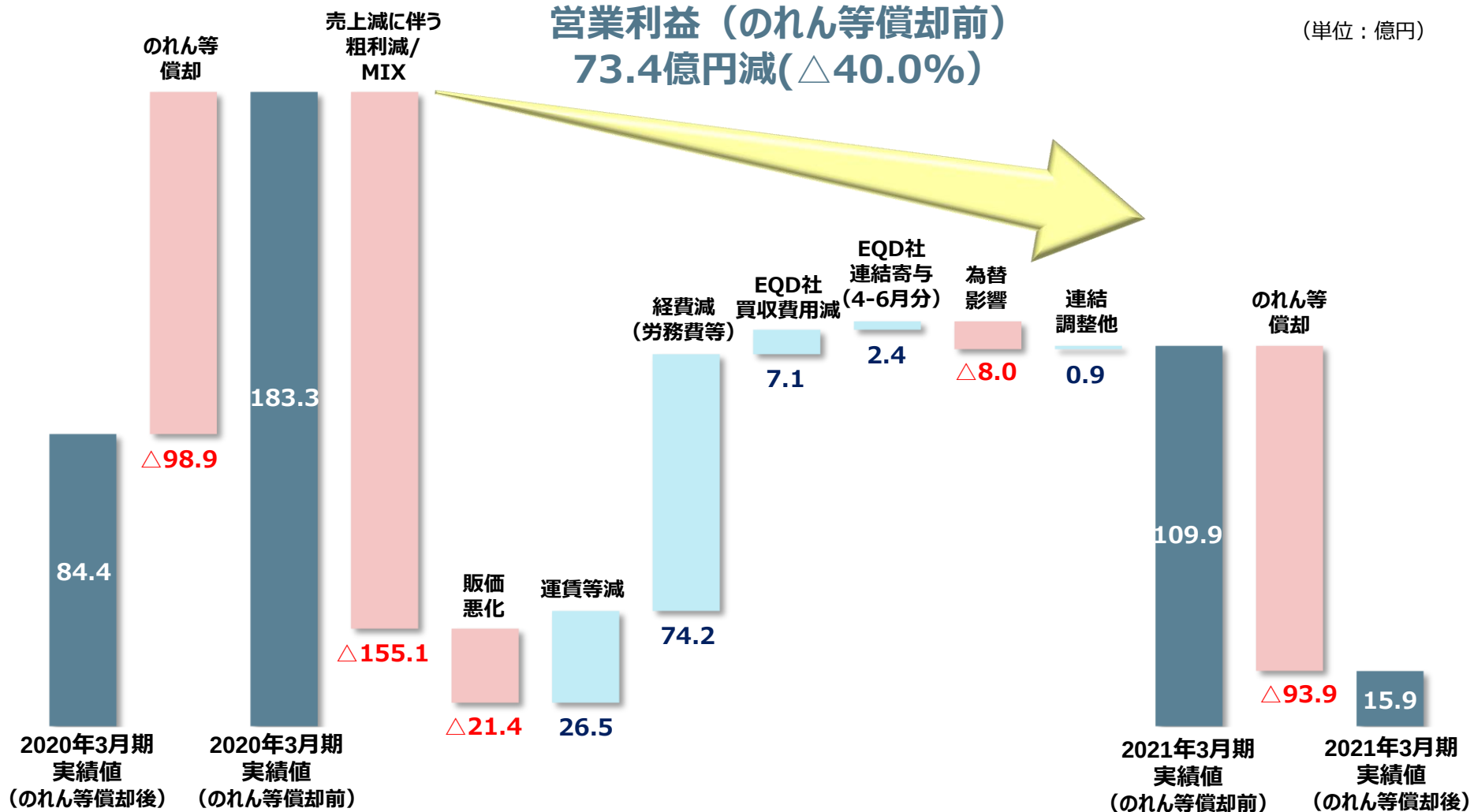
下期にかけて経済活動が再開したことにより受注状況は回復したものの、リードタイムの関係で売上への寄与までには至らず前年比△12.8%の減収。
※ EQD社連結影響を調整すると実質△15.0%の減収。

（単位：億円）



6. 連結営業利益増減要因（前年同期実績対比） Logisnext

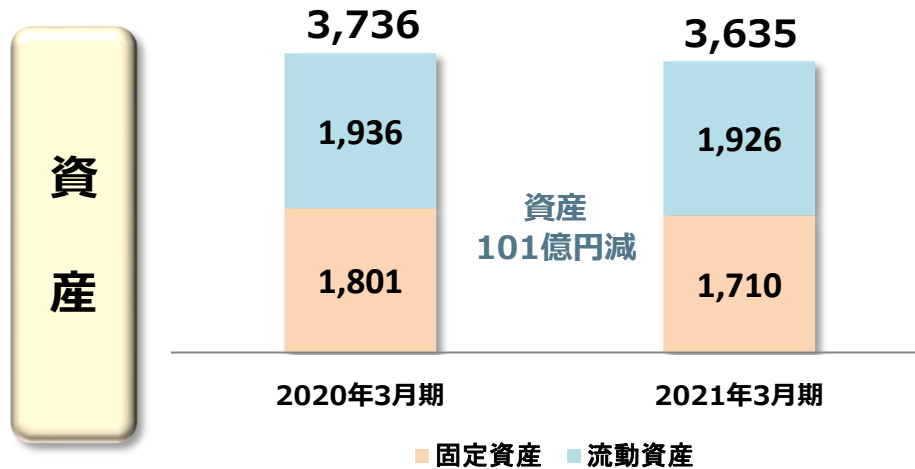
営業利益は、売上減に伴う粗利減を固定費削減等の取り組みでは補いきれず、前年比△40.0%の減益。



7. 連結貸借対照表

売上減に伴う売掛金・買掛金等運転資本の減少により、総資産・負債は減少。

(単位：億円)



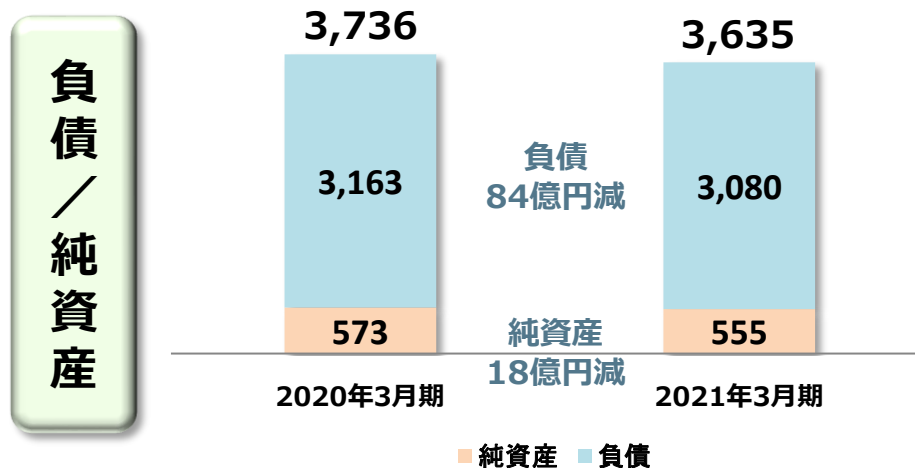
項目	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
流動資産	1,936	1,926	△ 10
(有形固定資産)	1,014	981	△ 33
(無形固定資産)	632	549	△ 84
(投資その他)	154	180	+25
固定資産計	1,801	1,710	△ 91
資産合計	3,736	3,635	△ 101

流動資産：減

売上減による売掛債権の減少

固定資産：減

のれん償却による減少



項目	2020年 3月期	2021年 3月期	増減
流動負債	1,544	1,489	△ 55
固定負債	1,619	1,590	△ 28
負債合計	3,163	3,080	△ 84
純資産計	573	555	△ 18
負債・純資産合計	3,736	3,635	△ 101

負債：減

買掛債務の減少

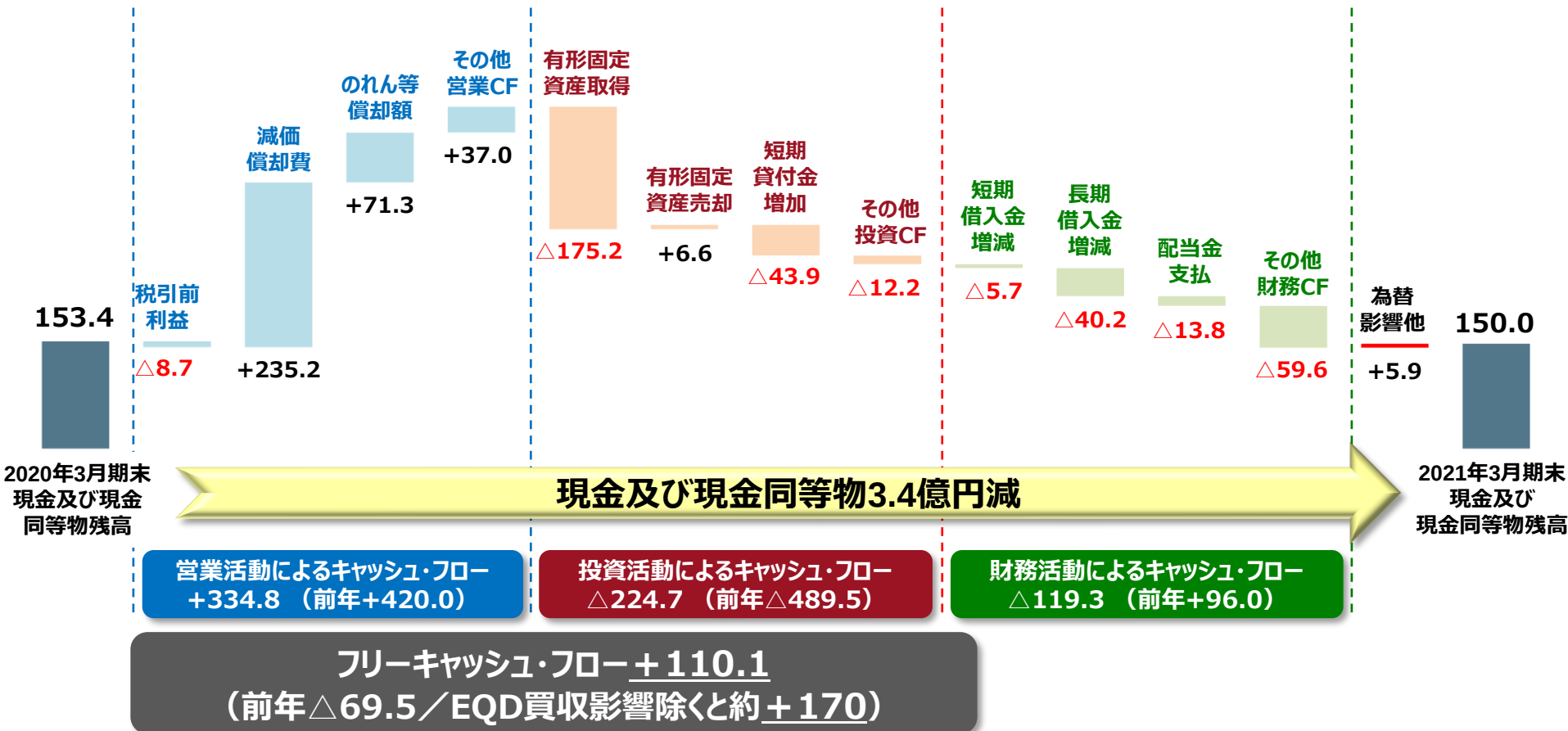
純資産：減

当期純損失による剰余金減・為替換算調整勘定の増等

8. キャッシュ・フローの状況

営業C/Fは△85.2億円減少（前年同期420億円）。コロナ渦による収益減が響く。
フリーC/Fは設備投資の節減・繰延が寄与し黒字化（+110.1億円）。

（単位：億円）



9. 2022年3月期通期業績見通し

(単位：億円)

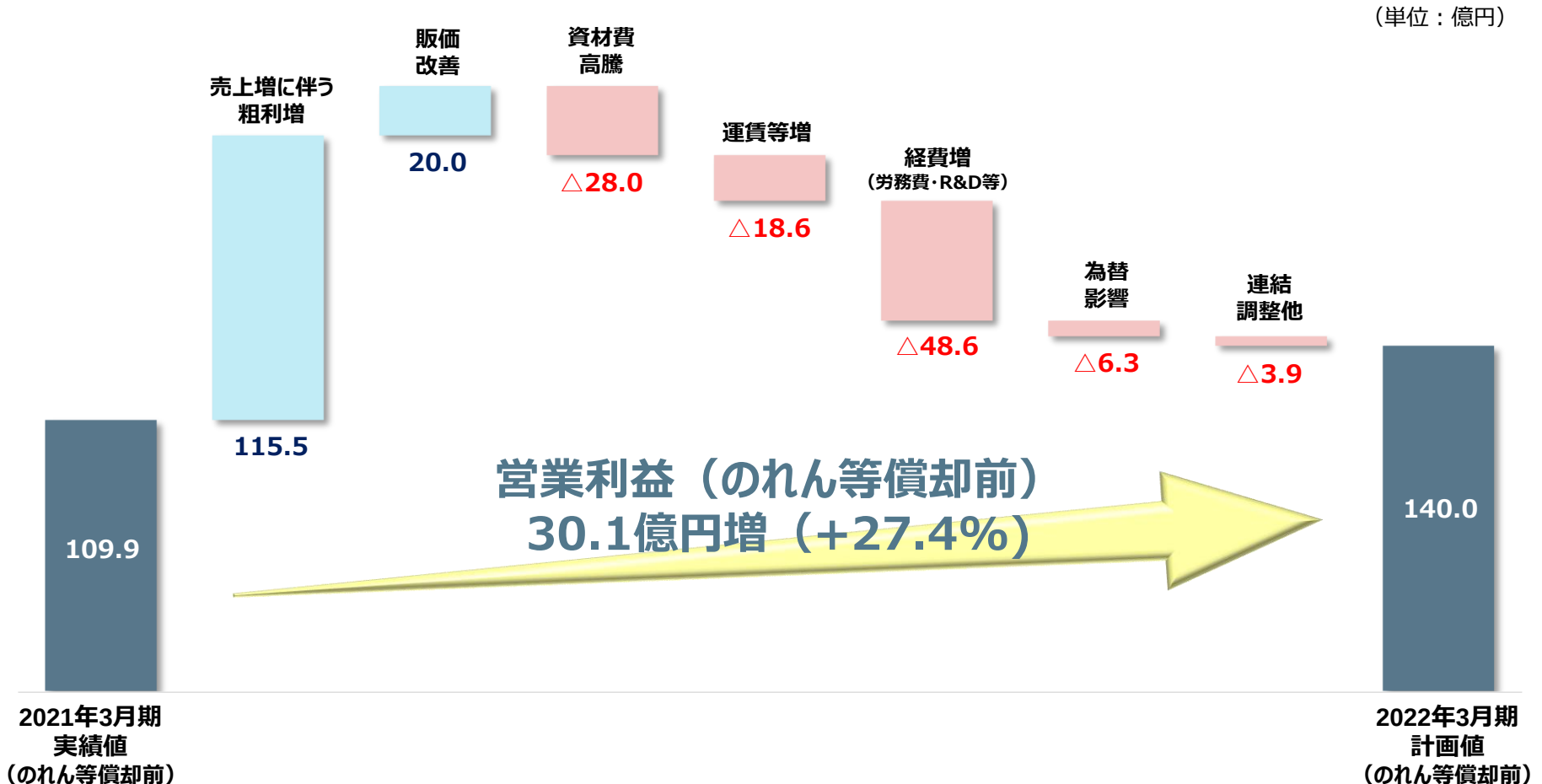
	2021年3月期	2022年3月期 (※)	前年同期比増減 (※)	
販売台数	85千台	102千台	+17千台	+20%
売上高	3,915.0	4,300.0	+385.0	+9.8%
営業利益 (のれん等償却前) (営業利益率)	109.9 (2.8%)	140.0 (3.3%)	+30.1	+27.4%
のれん等償却	93.9	90.0	—	—
営業利益 (営業利益率)	15.9 (0.4%)	50.0 (1.2%)	+34.1	+214.5%
経常利益 (経常利益率)	20.1 (0.5%)	40.0 (0.9%)	+19.9	+99.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (当期純利益率)	△26.8 (△0.7%)	10.0 (0.2%)	—	—
1株あたり配当	8円	8円	—	—

(※) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、上記の連結業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額。前年同期比増減は参考値。

2022年3月期計画レート：USD=105円 EUR=120円 CNY=16円

10. 通期見通し 営業利益増減要因

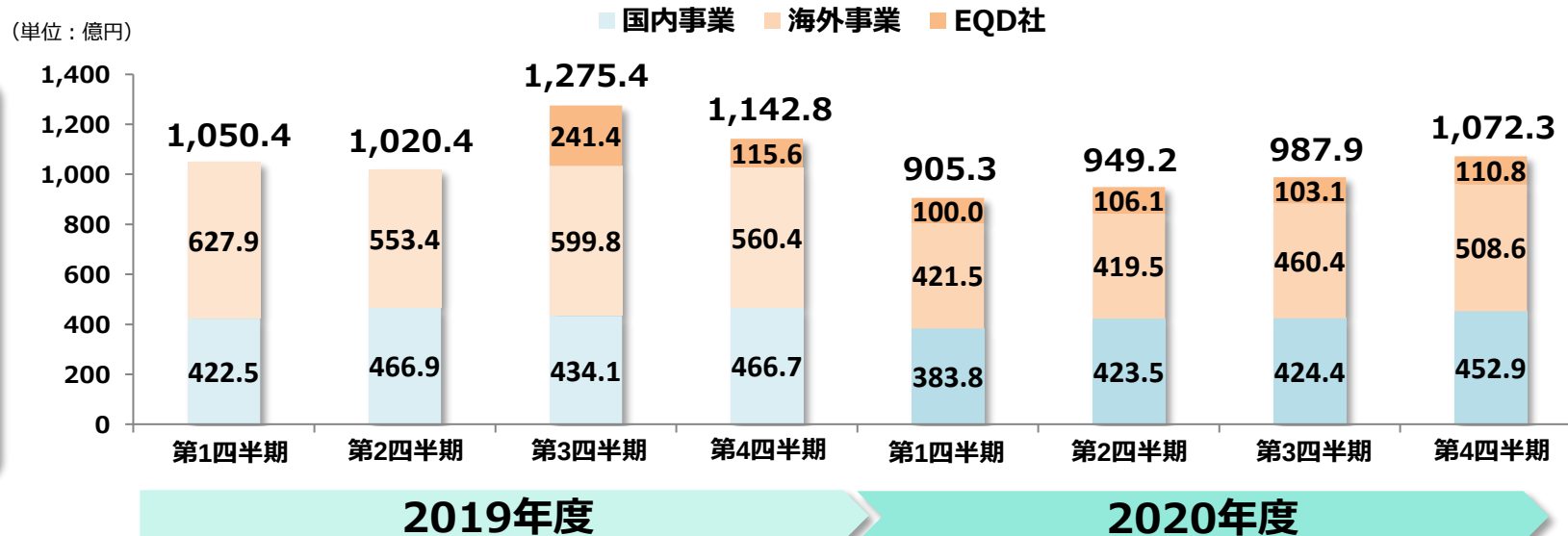
営業利益は経済活動の回復傾向に伴い、前年比+27.4%の増益となる見込み。



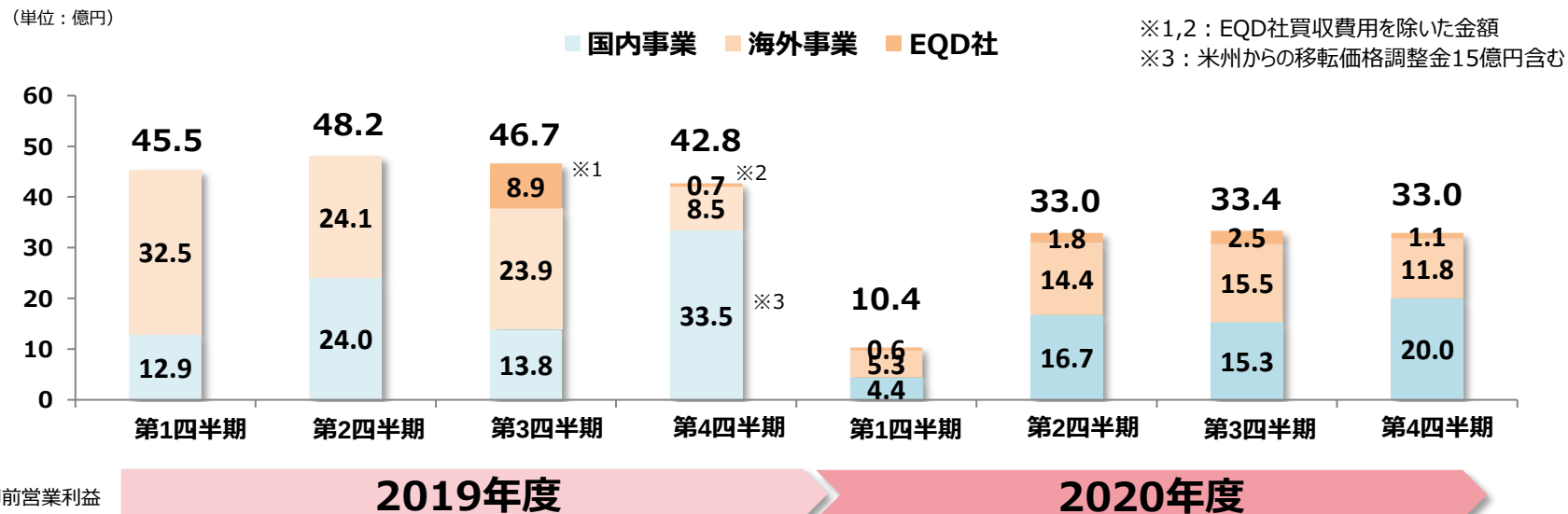
	指標	算式	2020年3月期		2021年3月期		コメント
				(のれん償却前)		(のれん償却前)	
総合	総資本利益率（ROA）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{総資本}}$	△ 1.4%	(2.8%)	△ 0.7%	(1.5%)	新型コロナウイルス感染症拡大により業績が悪化し、当期純損失となったことで数値が悪化。
	自己資本利益率（ROE）	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}}$	△ 8.7%	(12.2%)	△ 4.9%	(6.4%)	
収益性	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}}$	1.9%	(4.1%)	0.4%	(2.8%)	新型コロナウイルス感染症拡大により業績が悪化し、当期純損失となったことで数値が悪化。
	売上高当期利益率	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{売上高}}$	△ 1.2%	(2.5%)	△ 0.7%	(1.6%)	
効率性	総資本回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{総資本}}$	1.2回		1.1回		
	売上債権回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{売上債権}}$	5.8回		5.4回		
	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{棚卸資産}}$	5.5回		4.9回		
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}$	14.7%		15.1%		為替換算調整勘定を含むその他包括利益累計額増加により、自己資本比率は良化。
	D/Eレシオ	$\frac{\text{有利子負債}}{\text{株主資本}}$	3.3倍		3.3倍		
株主関連	1株あたり利益	$\frac{\text{当期純利益}}{\text{発行済株式数}}$	△49.24円		△25.19円		株価： 2020年3月期末：874円 2021年3月期末：1,296円
	株価収益率（PER）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり利益}}$	△17.7倍		△51.4倍		
	株価純資産倍率（PBR）	$\frac{\text{株価}}{\text{1株あたり純資産}}$	1.7倍		2.5倍		

【参考資料】四半期推移

売上高



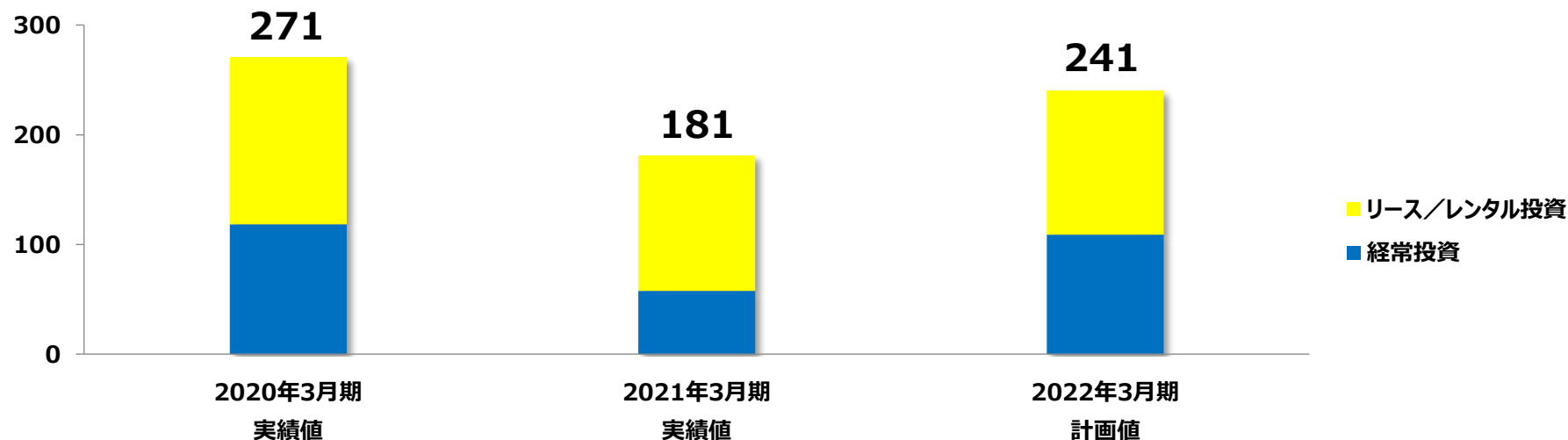
営業利益
(※)



【参考資料】設備投資／研究開発費

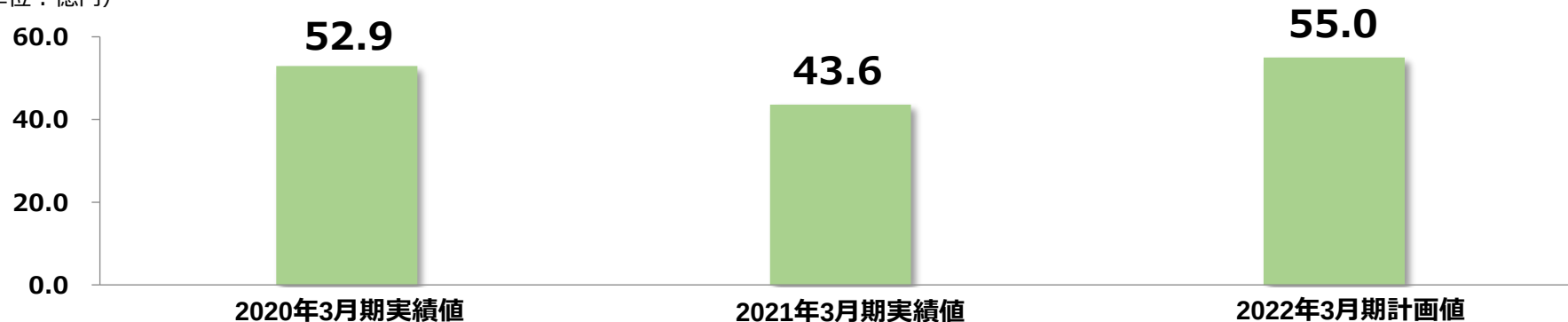
■ 設備投資額

(単位：億円)

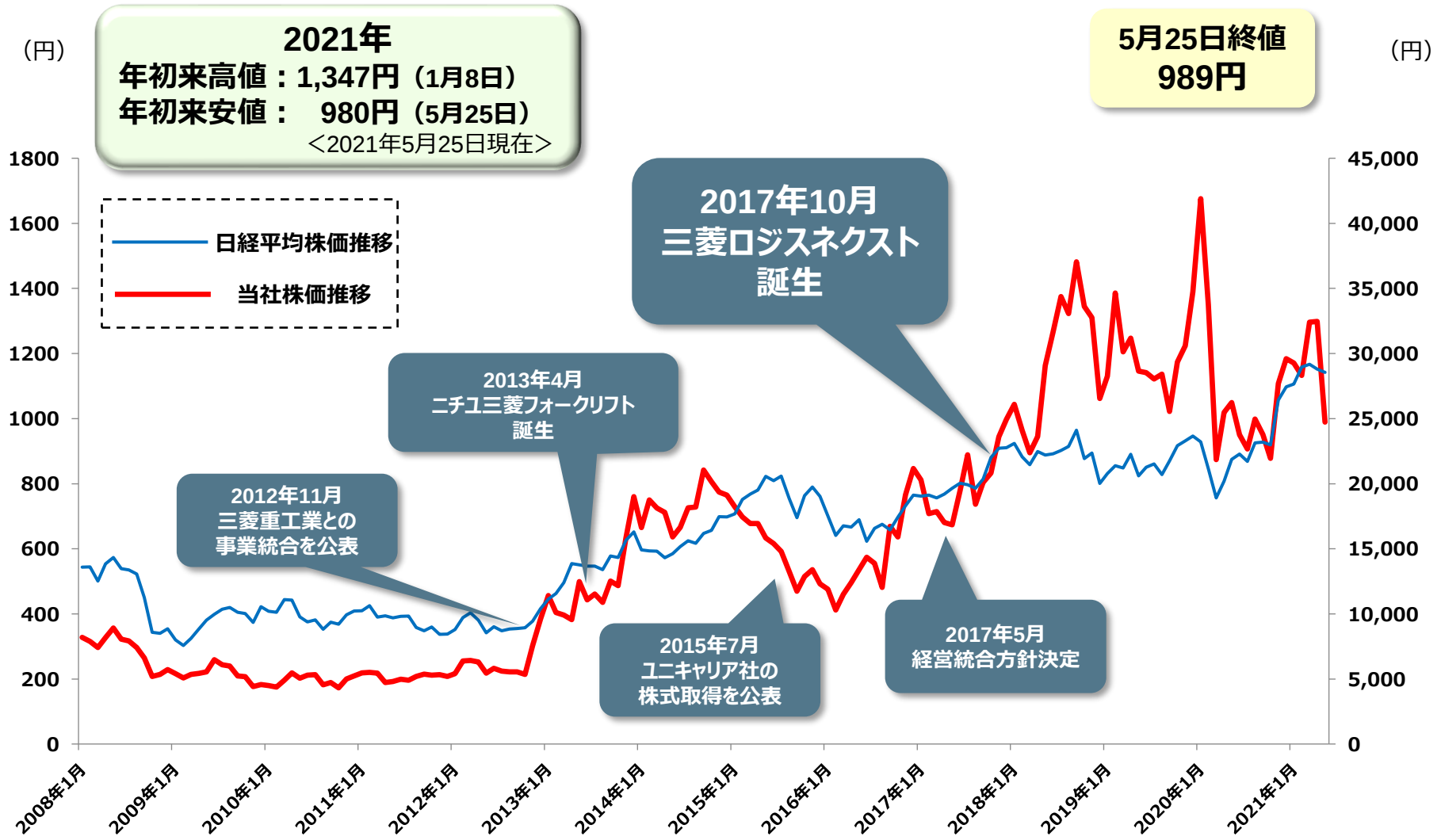


■ 研究開発費

(単位：億円)



【参考資料】株価の推移

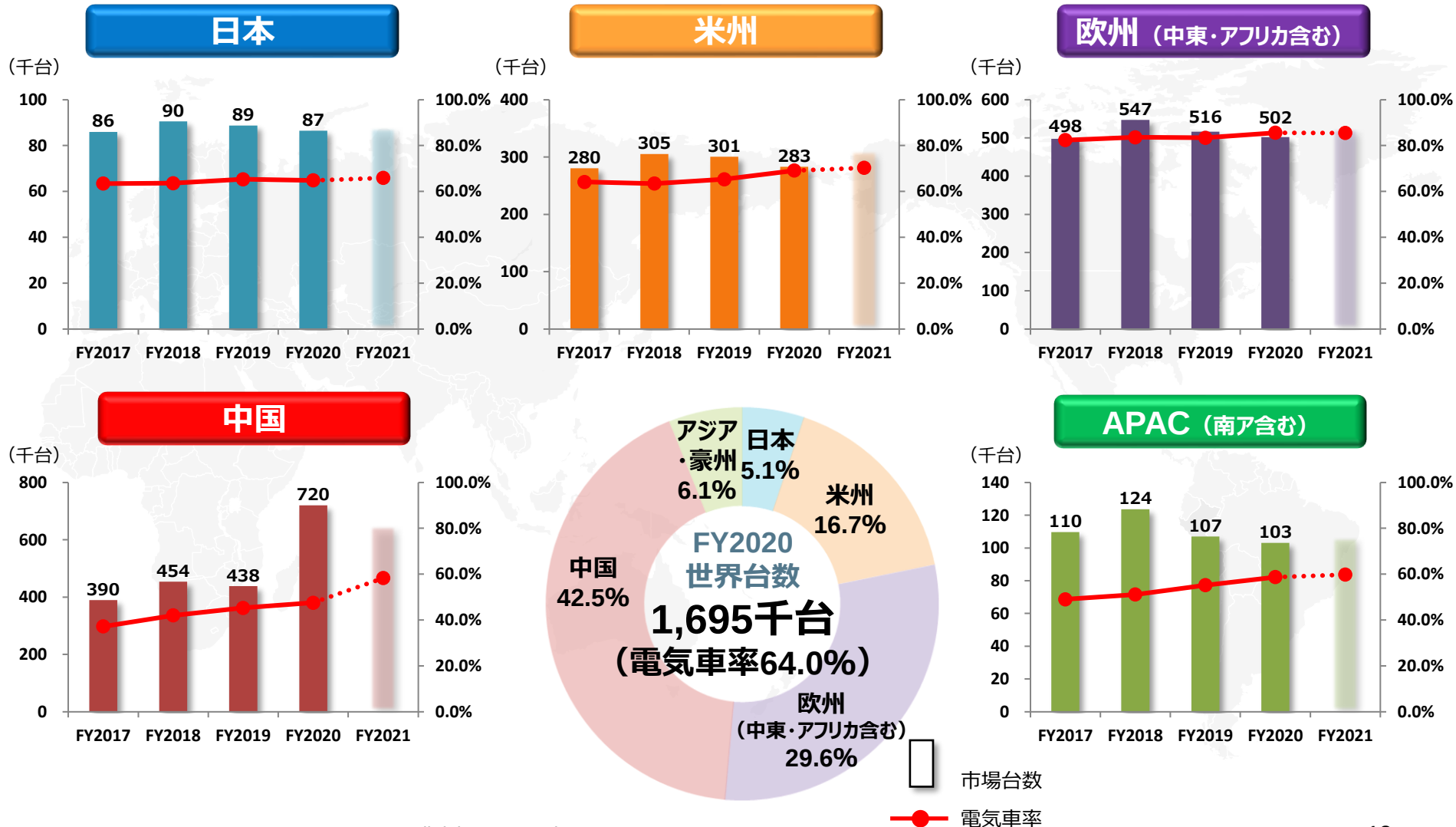


2021年度経営方針

三菱ロジスネクスト株式会社
代表取締役社長 CEO 久保 隆

1. フォークリフト市場動向【出荷実績・予測】 Logisnext

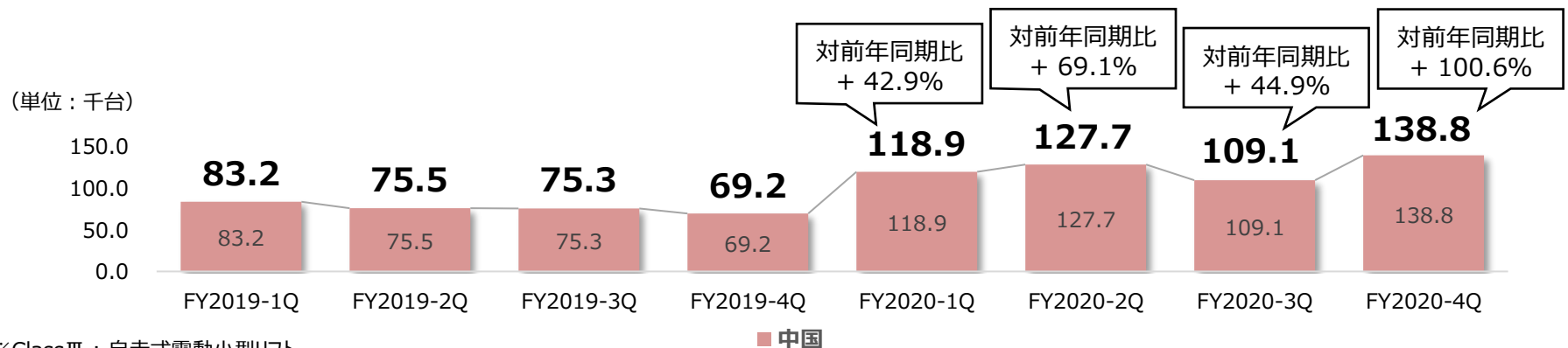
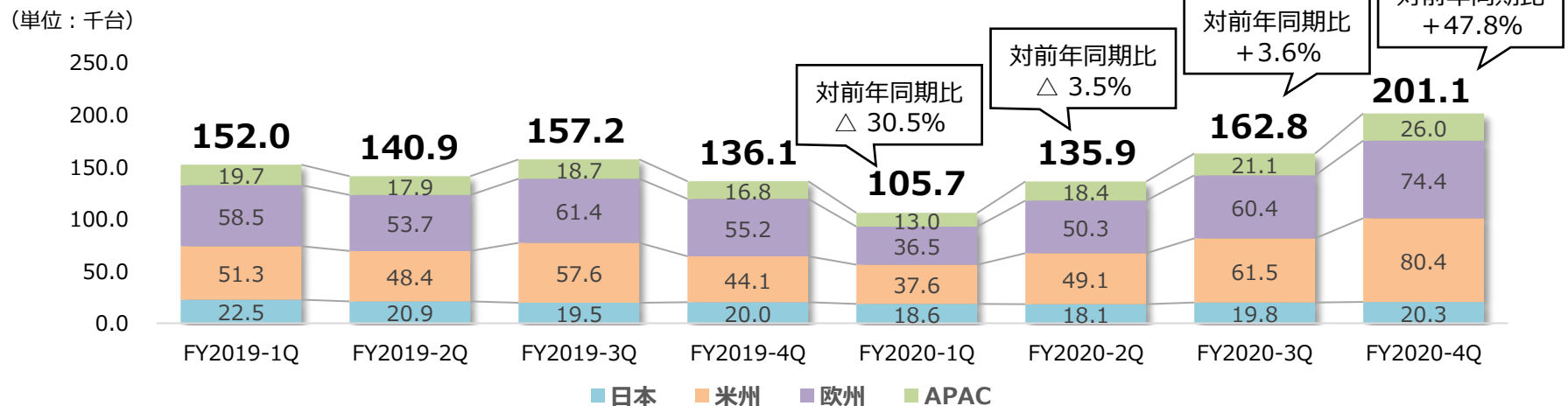
2020年度のフォークリフト市場は、依然好調な中国市場の牽引により出荷台数は前年比+16.8%の1,695千台。中国を除いた市場出荷台数は、前年度比△3.8%の975千台。



2. フォークリフト市場動向【受注実績】

- 世界的な経済活動の再開に伴い、受注動向は回復傾向にある。（FY2020-4Q：前年比+65.6%の340千台・中国市場を除くと同+47.8%の201千台）。
- 中国市場は依然として需要は増加し続けている（FY2020-4Q：前年比+100.6%の139千台）。

受注台数（ClassⅢ(※)除く）



※ClassⅢ：自走式電動小型リフト

3. フォークリフト市場見通し

※FY20は新型コロナウイルス感染拡大による特殊要因があったことから、FY19との比較としている。

日本	- 市場は19年度比で僅かに縮小すると予想。 - 一部サプライヤの台風被災により19年度、20年度の出荷台数に歪み。一時的影響を除いたシェアを維持する。
米州	- 市場は経済活動正常化を背景に19年度比での拡大を予想。 - 商談管理強化、価格戦略改定、商品ラインナップ強化、及び、EQDでのソリューション営業強化等により販売増を狙う。
欧州（中東・アフリカ含む）	- 市場はEコマース伸長を背景としたClassⅢの増加に伴い、19年度比で僅かに拡大するものと予想。 - 新機種の投入などバッテリー車を中心とした販売施策を強化、販売増を狙う。
中国	- 市場はEコマース市場拡大に伴うClassⅢ車体増加に伴い、19年度比で大きく拡大するものと予想。 - 新型バッテリー車投入による販売増、買い換え促進によりシェアを維持。
APAC（南ア含む）	- 市場は国毎に増減が予想されるが、19年度市場への回復を見込む。 - APAC市場では20年に投入した新型バッテリー車の拡販で販売増を狙う。

4. 中期経営計画「Logisnext SolutionS 2023」Logisnext

Logisnext SolutionS 2023（呼称、『LS23』）

「SolutionS」のS

お客様の物流の課題を解決するSolutionに加え、当社の課題を解決し、新しい企業文化を醸成するという2つのSolutionを意味しています

基本戦略

企業耐力の
強化

成長戦略の
推進

ブランド力
向上

企業理念

世界のあらゆる物流シーンで、お客様にソリューションを提供し続け、
未来創りに貢献する

企業耐力の強化

既存事業の強化

固定費・変動費の改善

成長戦略の推進

ソリューション事業の推進による事業領域拡大

販売ネットワーク再編・強化による利益創出

市場ニーズを捉えた商品開発によるシェアアップ

ブランド力向上

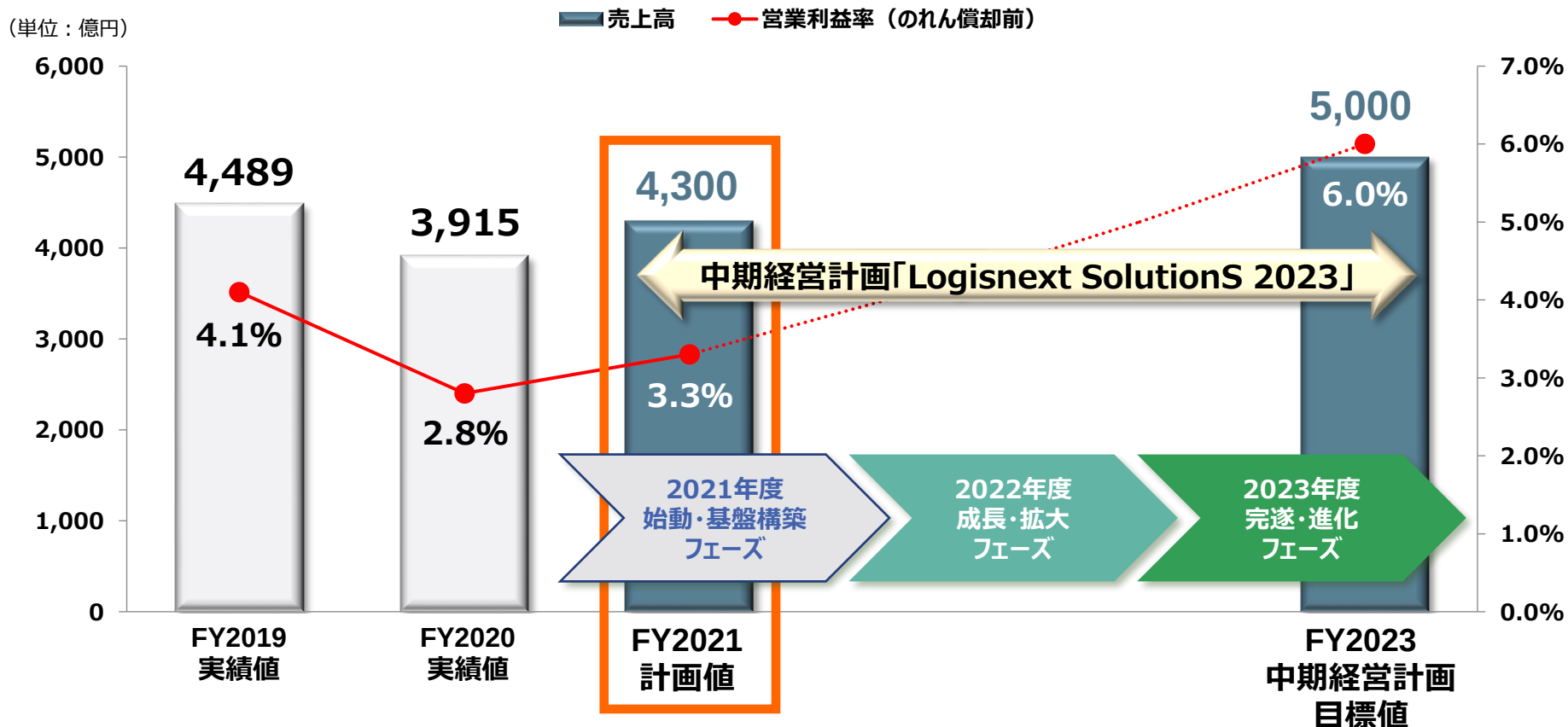
“Logisnext”ブランドの活用と認知度向上

“Logisnext”を核に新しい企業文化の醸成

6. 2021年度経営方針

2021年度の位置づけ

- 「Logisnext SolutionS 2023」の1年目「始動・基盤構築フェーズ」。
- これまでの取り組みを継続するとともに3つの基本戦略実行の道筋を明確化。
- 「企業耐力の強化」を最優先に取り組み、将来に向けて安定した財務基盤を構築。
- 環境変化にも迅速かつ的確に対応出来る体制を整える。



7. 成長への取り組み①

■ 統合シナジーの創出

➤ ALESISがデザイン賞を受賞

- 2019年11月に販売を開始した、統合後初の新型モデルALESIS（アレシス）が、2020年度グッドデザイン賞と第50回機械工業デザイン賞IDEAを受賞。
- スタイリッシュな外装デザイン、運転席からの視認性や操作性などが高く評価された。

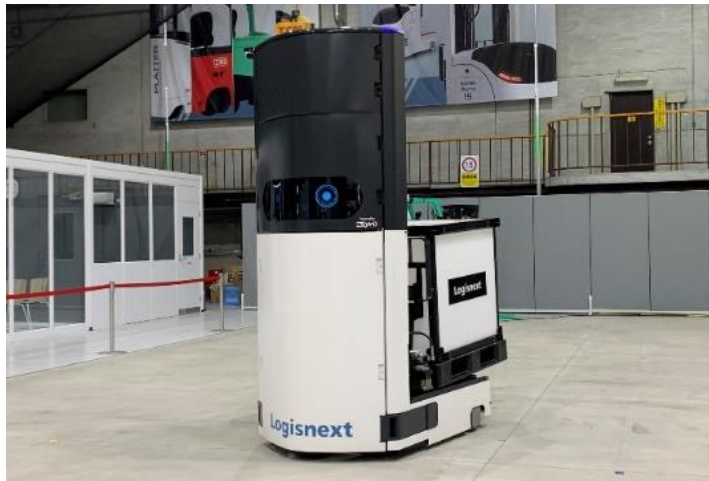


■ 先進技術開発

➤ 製品の自律化・知能化

- 三菱重工業総合研究所高砂地区の敷地内に設置した「物流実験センター」において、三菱重工業のΣSynXコンセプト（※1）に基づいたAGF「SynX-Vehicle」を共同で開発。
- 複数台のカメラで常時車両の周囲を監視しAI機能で人の接近を知らせ、現場の安全を確保するフォークリフト人検知システムを、大型フォークリフト用オプションとして近日中に発売予定。

SynX-Vehicle（コンセプト車両）※2



フォークリフト人検知システム



Powered by **ΣSynX**

※1 三菱重工が掲げる、物流機器の自律化・知能化ソリューションコンセプト「ΣSynX（シグマシンクス）」。

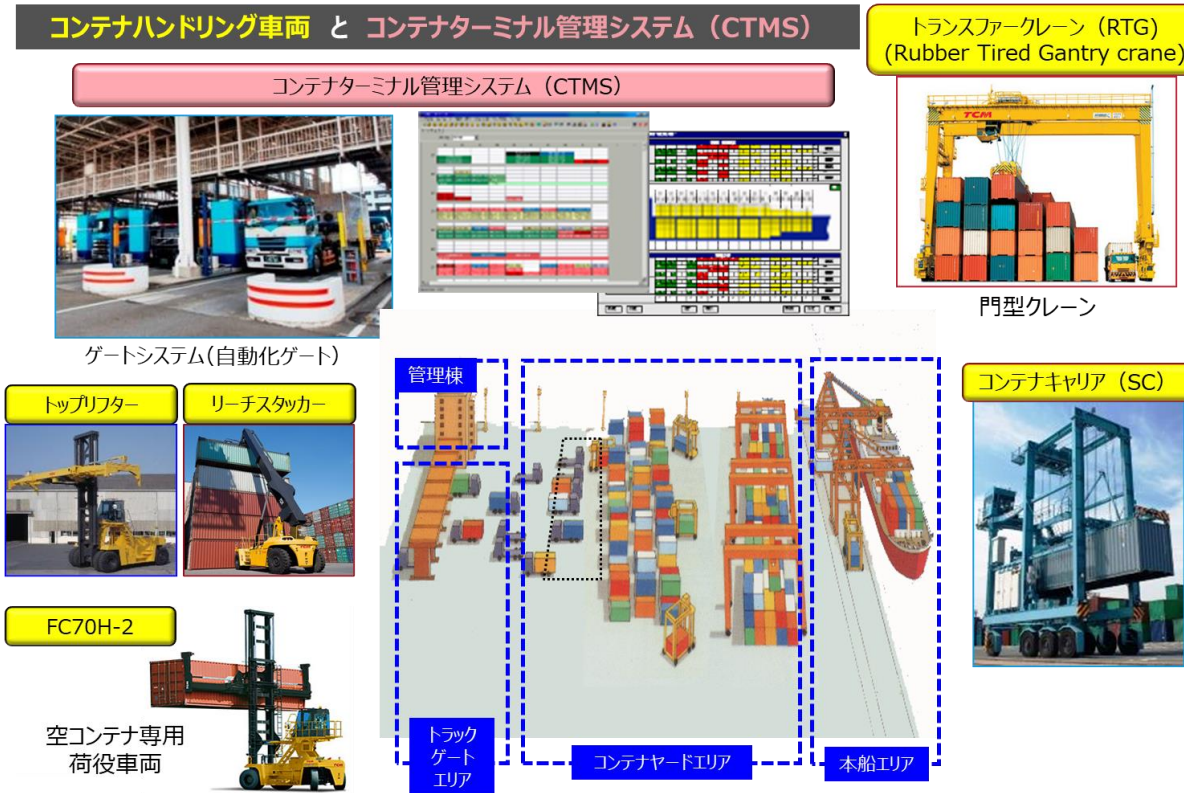
※2 ΣSynXを適用したAGF（Automated Guided Forklift：自動運転フォークリフト）。

9. 成長への取り組み③

■ 自動化技術

➤ 港湾向けソリューション事業の拡大

- コンテナ荷役を支える当社製品は、ハンドリング車両とターミナル管理システムに分けられ、ハードとソフトの両面からソリューションを提供している。
- 遠隔監視RTGや本船プランニングのAI化など港湾スマート化に取り組む中。蓄積したデータを分析して、港湾業務の更なる効率化を目指す。



■再編・強化による利益創出

➤ 地域別実施済施策と今後の方針

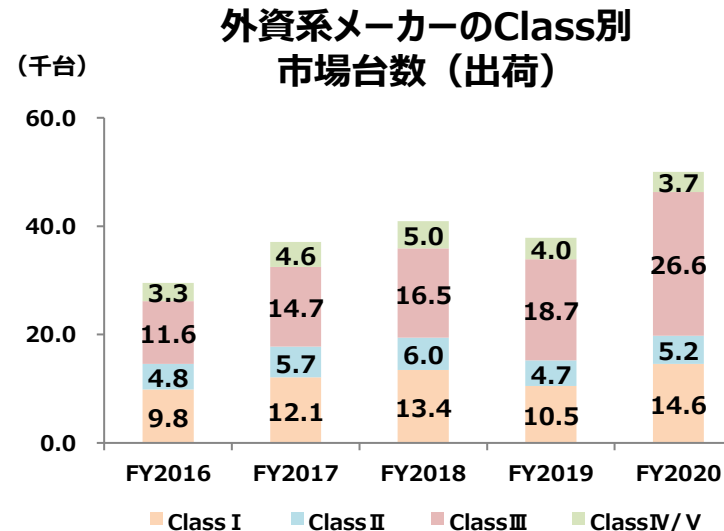
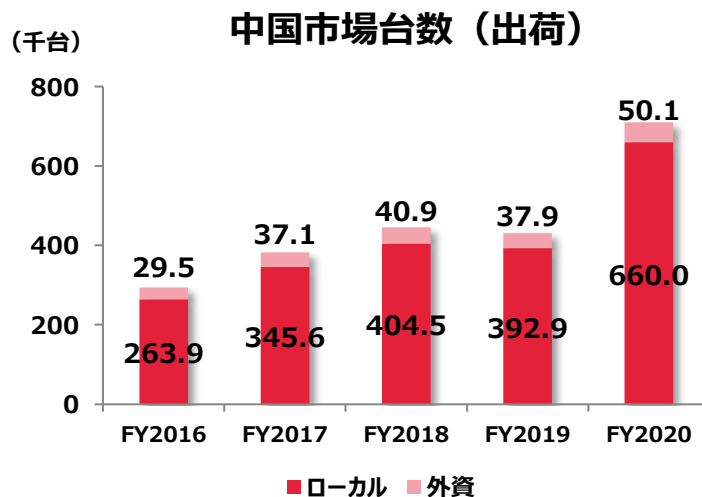
日本 (安定・確実市場)	米州 (最重要市場)	欧州 (維持・情報市場)	APAC (将来期待市場)	中国 (戦略再構築市場)
直系販売会社の 再編完了 (2020年10月1日)	直販網再編により EQDサービス拠点は 50拠点に	グループ子会社を 再編	統括会社、直貿の 販売網を再編	中国生産工場の 生産停止と閉鎖

- オペレーションの効率化 - マテハン商品強化 最先端のAI機能を搭載したロボット型床洗浄機 	- 顧客管理データを活用した販売戦略を展開 - レンタル事業の推進	- ブランド戦略に基づいた販売網の再編に着手 - 直販チャネルの強化	- 製品・部品のコストダウンを追求 - IT活用製品の導入・強化	- 販売網の再編 - 市場再開拓 - サービスの強化
---	--	---	---	--

■ 中国市場戦略

➤ 生産工場の閉鎖と事業環境

- 外部環境の変化への対応と中長期計画における生産体制の適正化を図る為、中国生産子会社である優嘉力叉車(安徽)有限公司（UCCA）における生産を停止。
- 中国市場拡大はローカルメーカーによるものが大きく、外資メーカーは厳しい状況下にある。製品別ではClassⅢが伸びており、ハイエンド製品を主力とする当社は戦略再構築が必要。
- 工場閉鎖によるリソース配分の戦略的組み換えや事業環境の変化に応じたポートフォリオ最適化・販売力強化に取り組み、選択と集中を進める。



**ClassⅢ例
(ローリフト)**

出典：China Industrial Truck Association（CITA）

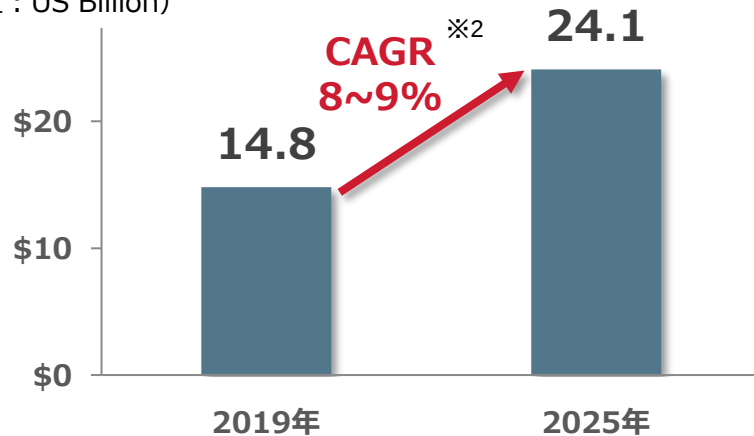
■米州物流ソリューション市場

➤ 米州のウェアハウス系機種・AGVの拡充、拡販（EQ Solution）

- 多品種小ロット化、Eコマース市場拡大、小型倉庫の増加、3PL事業者の増加に伴い、米州の物流ソリューション市場（※1）は2025年には241億ドル規模に成長する見通し。2019年でも148億ドル（全世界の約22%）と大きな市場規模である。
- 物流ソリューション市場の拡大に伴い、EQDにおいてMLFI（フィンランド）設計などのウェアハウス系機種やAGVのラインアップを充実化。高付加価値製品で需要の確実な取り込みを狙う。

米国の物流ソリューション市場

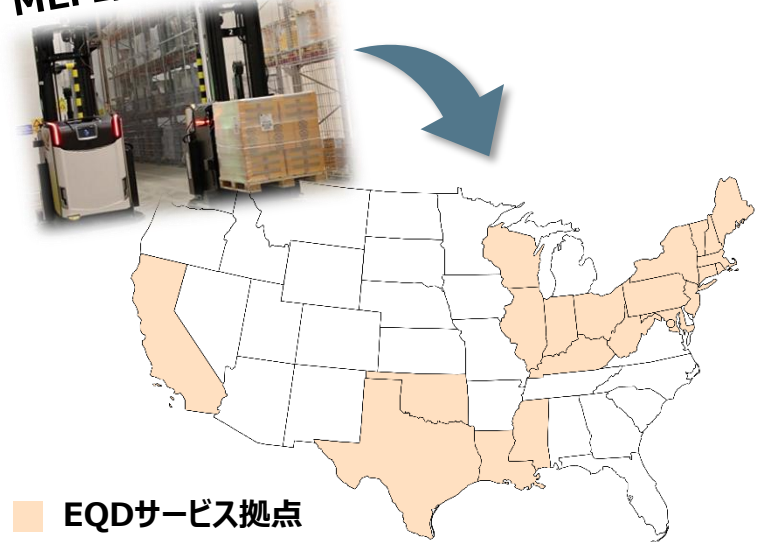
（単位：US Billion）



※1 屋内物流機器、AGV、関連システム、ラックやコンベアなどを含んだ市場

※2 CAGR：年平均成長率

MLFI設計のAGV



■ SDGs

➤ 「三菱ロジスネクスト SDGsレポート」を発行

- ESG活動に照らし合わせた重要課題14項目を抽出し、それらにリンクするSDGs8項目を特に注力する項目として設定。
- 事業活動、環境活動や社会貢献活動など社会的課題の解決に資する活動をまとめた「三菱ロジスネクスト SDGsレポート」を2020年12月に当社HPに掲載。



14. 成長への取り組み⑧

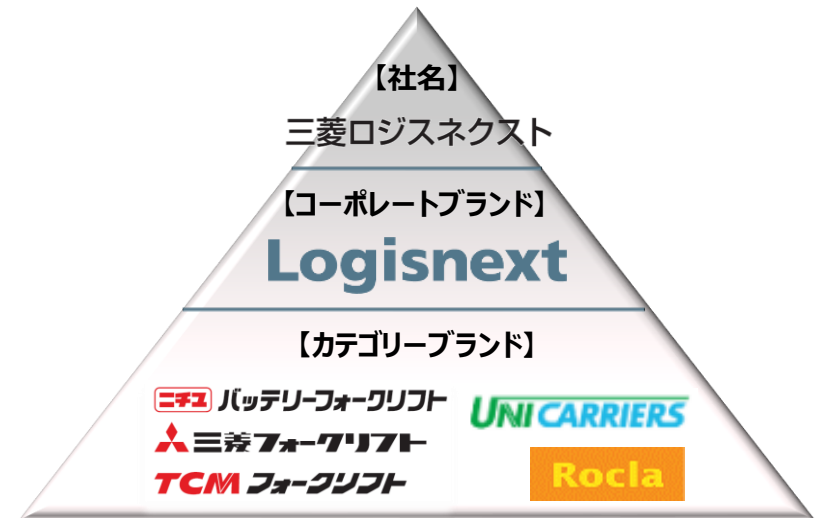
■ブランド力向上

➤ コーポレートブランド

- 国内販社や海外子会社の社名をLogisnext 冠称会社へと徐々に変更。

➤ カテゴリーブランド

- 世界の物流業界を長きに渡って支えてきた伝統ある物流機器メーカーに由来。
- 各国拠点の統合や販売網の再編と共にブランドの棲み分けを推進。



ブランド戦略

地域・製品ラインアップごとに知名度の高いブランドをフルに活用。
インナー・アウターブランディング戦略（※1）を進め、認知度向上に努める。

※1 インナーブランディング：企業理念や経営方針に基づき、自社の従業員に対して、浸透と共感を促す活動。
アウターブランディング：社外に向けたブランディング活動。

商 号	三菱ロジスネクスト株式会社 (Mitsubishi Logisnext Co., Ltd.)
本社所在地	京都府長岡京市東神足2丁目1番1号
設 立	1937年8月
代 表 者	代表取締役社長 CEO 久保 隆
資 本 金	49億13百万円
事業内容	バッテリーフォークリフト、エンジンフォークリフト、 搬送用ロボット、自動倉庫、WMS等の物流システム商品、 土木建設機械、産業用エンジン、ミッション等の開発・設計・ 製造・販売
事 業 所	【国内】京都・滋賀 他 【海外】米国・欧州・中国・アジア 他
連結従業員数	約11,400名
年間生産能力	約109,000台

【参考資料】国内生産／販売拠点

生産拠点：6 直系販社：9

【三菱ロジスネクスト】

本社（京都）

事業所（東京）

【直系販社9社】

- ①ロジスネクスト北海道
- ②ロジスネクスト東北
- ③ロジスネクスト関信越
- ④ロジスネクスト東京
- ⑤ロジスネクスト中部
- ⑥ロジスネクスト近畿
- ⑦ロジスネクスト中国
- ⑧ロジスネクスト四国
- ⑨ロジスネクスト九州



【参考資料】主な海外生産／販売拠点



注意事項

- 本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料における将来予測に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
- 将来における当社の業績が、現在の当社の将来予測と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
- 業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

本資料に関するお問い合わせ

三菱ロジスネクスト株式会社 財務企画部企画課 荻屋・柏木

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1

TEL : 075-956-8610 FAX : 075-951-4038

URL : www.logisnext.com

Logisnext

三菱ロジスネクスト株式会社